

JAPANESE CHAMBER
of
COMMERCE & INDUSTRY
SINGAPORE.

STRICTLY MEMBERS ONLY

創刊 1970:1-2 月號

月報



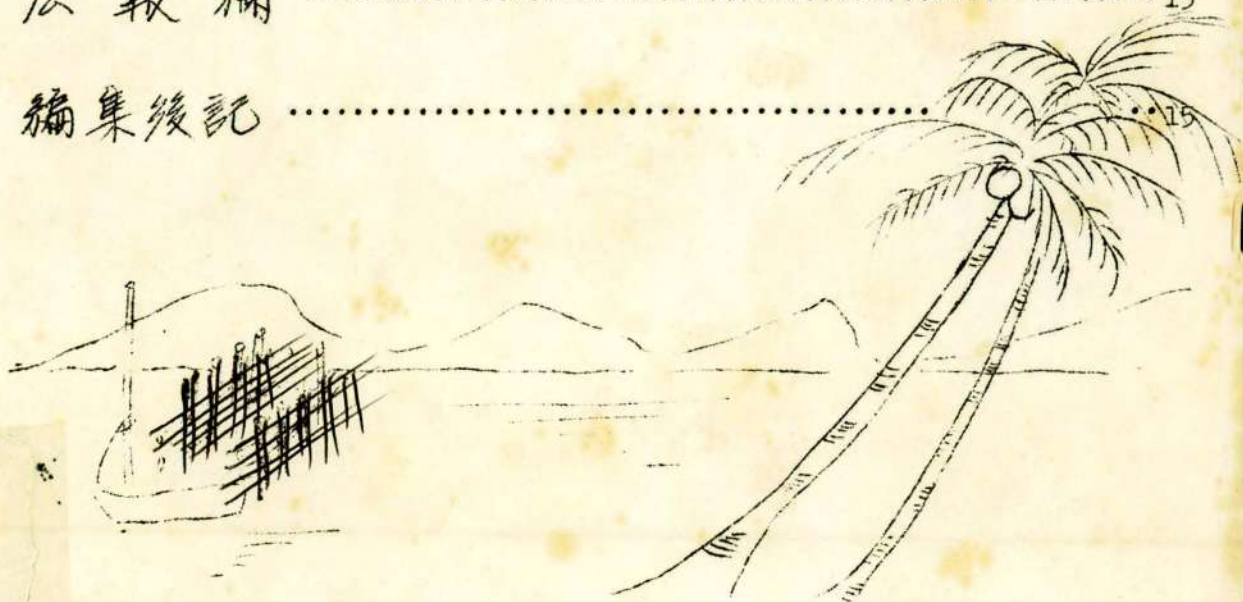
シンガポール日本商工會議所

Photograph: Courtesy of Port of Singapore Authority

月報創刊
1970.1-2月号

≡ 目 次 ≡

巻頭之辞	佐藤周輔氏 (会頭) ..	1
国際化時代	奈良靖彦氏 (大使) ..	4
SJJC が出来るまで	発起人会日誌より	5
事務局 様より		8
理事会承認、月例会、雑件		
部会 様より		11
金屋部会、金融保険部会		
現地の声	立花氏 (時事通信) ..	14
広報欄		15
編集後記		15



三 卷 頭 之 辞

シンガポール日本商工会議所も吼々の聲を挙げて
早々半歳目、今般月報創刊号発行に当りその巻頭を
穢させて頂ける事は小生に執つて無上の光栄と思います。
この機会をかりて“1970年代初頭に当り思いつく
儘に所感を申述べさせて頂き度いと思います。

昭和45年1月20日

シンガポール日本商工会議所
会 頭 佐藤 周輔

大分弁になりますか、或人が神様は不公平だと嘆
いていました。『日本人はこの様に勤勉なのに小さな
国土に押込められて効けど効けど貧乏している。それ
なのにオーストラリア人は日本の10分の1の人口で20数倍
の土地を余してノビリー一生を送っている。GNP Per
Capita 3/4000 米等の国もあれば、数十米等の国もあ
る。生まれると直ぐ砲聲の中で育ちながら青春も
Enjoy 出来ず流れ弾に当って死んでいく国の人達も
ある』と……。

ヨーロッパを旅行して見るとついこの間迄七つの海
を支配していた大英帝国、ナポレオンの佛蘭西を始め
伊太利も独逸もそしてスペインもポルトガルもオラン
ジも果てはスウェーデン、ノルウエーに致る迄何時の時
代か多かれ少なかれ世界を支配した歴史がある事

をひしひしと想い出させます。

我々の子供の頃の日本は平和であったが、ホニの一部の人達を除いては誠にミゲメで貧乏でした。それに輔を掛けたのが大東亜戦争です。昭和20年、世界数十ヶ国を相手に戦った日本帝国は遂に刀折れ矢盡き荒廢に歸した国土に全面降服した時、日本の製鉄設備は4/50万噸、綿紡も又数十万錠、そして都会に生活していた我々は豚の餌同様の食物で僅に飢えを忍び、ローソクの炎の下で嗚呼 もうこれで終わるかと思える余裕すら失なっていたのか、つい昨日の様な気がします。

その日本が何時の間にか鉄鋼、造船、自動車、化学、繊維工業等殆んど分野で世界の1位を爭う様になった事は正に世紀の奇蹟と申すべきでしょう。

何れにせよ嘗て長い歴史の中に世界の多くの国々が然る可き時と人を得、その努力に従って大なり小なり当時の世界を支配し得たとするなら、今や日本にもその chance が廻って来つゝある。即ち神様は必ずしも不公平では無いという証拠になりそうです。

而し翻って日本の経済を見直した時 成程幾つかのものは米、ソに次ぐ世界才三位と云うことになっているにしても全般的に見ると内容と Balance に於て小々米、米国のそれとは雲泥の差があるのではないでしようか？

例えば身近な例では日本では車はあっても住居

もガレーゲもなかったり、素晴らしい国道は出来ても大方は
グミグミ ガタガタの小路が多かったり、機械にしてもまだ
まだ米国には敵わないものが多く、更に米国では Apollo が
月を征服したのに日本ではまだ玩具同様の小型無人
ロケットの打上げすら成功していないといった処です。

1970年代の日本はこの unbalance な全済内容を充実
是正 真に世界の一柱を確保出来るか堂々の重大な試
練の Decade です。かくて日本の全済は 世界全済との連
帯性が飛躍的に高まり一躍に国際化時代に突入した
と申せましょう。

国際化に入った日本は従来の殻を打破った新たな
針路を見出さねばならないと思います。

先づ日本は従来の欧米依存を是正しなければならない
と思います。日本は如可にモガコウとアジアに在り、日
本人はアジア人である。日本はアジアあつての日本であ
る。我国の政策も全済も統てアジアオー主義であり
アジア重奥主義でなければならない。そして日本は好
むと好まざるに不拘ずアジアの政情と全済に責任
を持たねばならない。そしてその基盤に立ってこそ日本は世
界の仲間入りか出来るのでは無いでしょうか。

我々は辛い今シンガポールに居ます。この国の人々と深
く溶け合つて何かしかでもこの国の繁栄に寄与すること
をして行きたいと思う気持は皆一諸だと思ひます。

このシンガポール日本商工会議所も半歳を迎へました。

我々はいさゝかこの組織を活用して崇高な理念と使命
感の下にこの国の繁栄を祈りそして日本人がシンガポール
共和国を始めアジアの諸国の人達から真に愛される民
族になりたいものだと思います。 (完)

国際化時代

名誉顧問

奈良靖彦

大国が後進国に投資する場合、必要以上に被投資国にギラギラした印象を与えるようだ。そのために日本や米国の努力がその国の発展に寄与しているにもかかわらず、喜ばれない例がある。これを防ぐためには、次の方法があると思う。

①は当該国の人をできるだけ登用することである。自分が感心した例はアメリカでも有数の大銀行である First National City Bank が当地の支店長に今年30才になる wang 氏を抜起したことである。残念ながら日本では語学の関係でそこまで望むのは現段階では難しい。しかし心して我々もそのような方法に持つてゆかざるまい。

②の緩和策は合併にしても規模が大きければ大きい程、以上の国の参加が望ましい。そうすることにより、①国の横暴という説を防止できる。

いずれにせよ、わが国もますます国際化時代に入ってきたのであるから、日本だけですべてをやってゆくという従来の方針を改めるべき時期にきているのではあるまいか。

シンガポール商工会談所が出来る迄

発起人会日誌より

1969年3月18日

日本大使公邸に於ける吉田大使主催宴会 (シンガポールに日本商工会談所を設立する件につき打合、発起人会を結成、三井物産 佐藤支店長が世話役として選ばれた。発起人会願願者下記の通り、三井、三菱、日商、丸紅、C.I.、東棉、住商、東銀、IHI、NYK、大林、時事計 12社)

" " 3月28日

佐藤氏 Bangkok 日本人商工会談所に出張、問題案の調査、(林会頭、衣本専務理事と会談)を行う。

" " 4月4日

佐藤氏 上京、日本商工会談所三輪専務理事に Spore 日商援助陳情。

" " 4月24日

発起人会小委員会打合せ (全般段取り)

" " 4月29日

Company Secretary Mr. Kan choon Kooi と登記関係打合せ。

Lee & Lee 社 Lee Kim yew 氏に Company Act による登記に關する一切の業務を依頼、(在外各地日本商工会談所及び当国國際商工会談所定款を技料、当地日本商工会談所に適當な原案を編み、Lee & Lee 社に検討せしむ)

1969年5月2日

大蔵大臣 Mr. Goh Ken Suen に対し許可申請

5月10日
1969年及び20日
6月2日



Lee & Lee 社の第1次定款 Draft を小委員会にて
審議、改訂案に対し再審議を重ね最終案を完成
大蔵省に申請

“ “ 5月29日及び6月5日

シンガポール日本商工会議所事務所物色、各候補
ビルと交渉開始、小委員会に回し Chinese Chamb-
er of Commerce Bldg 内事務所を全員一致にて政
府許可条件付き借入れ決断。

“ “ 6月19日

大蔵次官 Pillay 氏よりシンガポール日本商工会
議所の設立は原則的に認める旨の来状入手。

“ “ 6月20日

Chinese Chamber of Commerce New office 正式借入れ。

“ “ 6月24日

発起人会開催
金、会費決定、更に事務所 Key money 及び弁護士
料引当として発起人全員より 各自 \$900 宛商工会議
所へ提出願う。
* Article / 事務所 / 入会

1969年6月25日

大蔵大臣正式許可書入手

" " 7月14日

発起人会開催、登記用手続 *signature* 取付総会招集打合せ

" " 7月19日

Registrar of Company 登記完了。

" " 7月22日

在星日報 87 単位に 覽書、定款、趣意書、加入申込用紙発送。

" " 7月29日

発起人会開催、選挙管理規定創立、総会運営打合せ。

" " 8月1日

日本商工会議所 足立会 顔宛 補助金申請 正式出状 (7月31日以降 事務所 家具 什器 その他 準備)

" " 8月11日

被選挙人名簿編切り 選挙用紙発送。

" " 8月22日

創立総会

選挙により下記の役員が決定しました。

(4期 1970年6月30日迄)

会 頭 : 佐藤周輔 (三井)

副会頭 : 桜井清彦 (J.S.L)

副会頭 : 松本勝文 (東銀)

理 事 : 東銀、C.I、富士鉄、丸紅、三菱、三井、三銀、日/岩、N.Y.K、桜井 (J.S.L)

監 事 : 東棉、JETRO

加入申込社数 56 件 (1970年1月現在 会員 80 件)

 理事会承認事項



1 2 委員会 8 部会設置

(才1回 25-8-69)

○ 統務会計委員

委員長
 統務委員
 法規委員
 会計委員

松本副会頭
 藤永氏(東銀)
 藤原氏(1HI)
 藤永氏(東銀)

○ 渉外広報委員

委員長
 渉外委員
 広報委員

桜井副会頭
 戸星氏(JETRO)
 萩原氏(JAL)

- 商社部会
- 工業建設部会
- 運輸通信サビ部会
- 金融保険部会
- 肥料化学部会
- ゴム部会
- 金属部会
- 繊維部会

担当理事

"
 "
 "
 "
 "
 "
 "

日商岩井
 桜井副会頭
 NYK
 三井銀行
 三菱商事
 丸紅
 富士鉄
 伊藤忠

2 定款才4条に依る会員数 120名に増員

(才1回 25-8-69)

3 Nomination

(才2回 9-9-69)

顧問 奈良大使
 名誉会員 大使館

Guest Member 中野邦彦氏、大江氏
 吉田 氏、松村氏

4 東京連絡代表設置 (才3回 10-10-'69)
時事通信経済部 村上好重氏 委嘱

5 調査資料委員に戸室氏 (JETRO) 委嘱
- 図書、資料購入の route 確立 - (才4回 11-11-'69)

6 初年度事業計画予算案決定 (才5回 9-12-'69)
各部会予算割当額は各担当理事に通知

7 Bye-Law (才5回 9-12-'69)
No. 001 入会及び退会に関する規定
No. 002 理事選挙管理規定

8 Bye-Law (才6回 13-1-'70)
No. 003 監事規定
※ Bye-Law 全文近日中送附申上げます。

** 月例会 **

9 月例会

奈良大使講演『最近の米口経済事情』

10 月例会

Mr. I. F. Tan (EDB 長官) 講演

『INDUSTRIALIZATION OF S'PORE AND
WHAT ROLE JAPAN CAN PLAY TOWAR-
-D IT』

11 月例会

公開座談会

『最近の東南アジア情勢に就いて』



講 師	朝日新聞	(吉田氏)
	時事通信	(立花氏)
	共同通信	(松村氏)
	東京中日	(大江氏)

12月例会

忘年懇親昼食会 於 HOTEL NEGARA大食堂

1月例会

Mr. Alan Chae (H.D.B. Urban Renewal
Dept. 部長)

『INVESTMENT OPPORTUNITY IN URBAN
RENEWAL PROJECT』

2月例会

Dr. K. E. Shaw (南洋大学文学部々長)
『南洋華僑と日本』

各例会とも5/60名以上の出席者を迎え盛会裡に行
われて居ますが過去6回の例会に就いて皆様の
所批判を載し今後の運営方針を樹て度く宜敷く。
(事務局)

雑件

1. CC Bennett 会頭、Lemer 副会頭、Hugh Secre-
-tary と意見交換会。 (8-10-69)

Visitor 便り

1. 衆議院決算委員会海外視察団来所 (30-9-69)
(団長 中川俊思先生 --- 自民党代議士決算委員長)
2. EXPO 70 goodwill Mission 伍堂団長以下来所 (3-11-69)
3. 東南了視察議員団(衆議院) (20-9-69)
谷垣団長(自民)以下 太田(社会)石川(自民)及成川参事
4. 通産/貿易振興局 平林事務官 (6-10-69)

部会長より

金屋部会 (1969年10月～12月)

(1) 月例会 (毎月オ3金曜)

○オ1回 10月2日 商工会議所において開催

決議事項

1. 部会長、副部会長の選任

出席者全員推せんにて日本鋼管 中田氏を部会長に選任、任期は商工会議所の理事と任期を同一とし今回は'70年6月まで。

副部会長は之を置かない。

2. 幹事の決定

幹事2名を置き業務運営に当らせる。

全員会社各社時廻り、でアルファベット順とし任期は4ヶ月、10～1月 安宅産業、伊藤忠をオ1回幹事とする。

3. 部会活動の構想検討。

4. 11月開催映画会準備進捗状況の説明。

○オ2回 11月7日 商工会議所において開催

決議事項

1. 部会活動の方針の作成。

2. 同とに伴う予算案の作成

3. 10月29日開催 Ecafe 講演会費用分担案。

4. 映画会実行予定の説明及び検討。

会談室に於て歓迎会を兼ね講演会を催した。
田畑田長に『東南アジアの鉄鋼事情について』との
演題で此講演をお願いし引続き質疑応答に入り
活潑な応酬が繰返された。その後 歓迎晩餐会
に移りここでも尚各テーブルについた団員を中心に意見の
交換が行なわれた。

当日の出席 18社 22名。

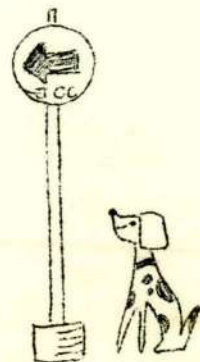
金融保険部会

10月9日 講演 東銀 鶴飼氏
“シンガポール一般金融情勢”

2月25日 (予定)
講演 FNCB 中島氏
“Asian Dollar について”

3月中 (予定)
講演 ジェトロ 戸室氏
“最近のシンガポール経済概観”

○ 2月、3月の講演には金融保険部会以外の部会
員にも出席案内することとした。



▶ 英商相の訪問を大歓迎

英口のメースン商相はノ月14日から16日までシンガポールを訪問、その同リー・クワン・ユー首相はじめ政府首脳、口際商業会議所、中華総商会の有力者と会談したり、ジロニ工業地区を視察するなど精力的に動いた。これは英口の東南アジアへの全済再攻勢の前ぶれとみられる。

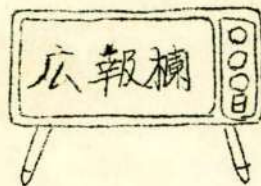
シンガポールは英口との全済的結び付きを切望しており、メースン商相の訪問の際、各紙はこれを大いに歓迎する旨の論説をかかげた。一例を挙げるとノ月17日の南洋商報は“英口のシンガポールに対する投資計画”と題する社説をのせ、次のように論じた。

- 1、英口の工業製品は高度の科学技術を用い規格標準を重視し、口際市場で凌越した地位を占めている。
- 1、東南アジア地区の市場では現在、中口、日本、インド、韓国、台湾などの工業製品があふれ、英口その他欧州の商品は高度の科学技術を用いなければ足場を築けない。
- 1、我々は英口が高度の科学技術をシンガポールに投入することを歓迎する。この西の発展計画が順調に進めばシンガポールと英口の全済発展は新たな道を歩き、この地域の全済発展史上、画期的なものとなる。

▶ 日本の総選挙

当地の新聞は日本の衆院選挙を大きく取り上げた。12月29日の南洋商報は“日本総選挙の結果”星州日報は“日本の選挙からアジアの大局を見る”と題する社説をかかけ、日本の動向がアジアの安全に影響するところが大であると論じている。

(了)



I 事務所変更

GM-04 TOKYO/CHUNICHI

334 K, CLEMENCEAU AVENUE S'PORE 9.

TEL: 20748.

II 社名変更

NO 55 SEKISUI MALAYSIA CO., LTD. は SEKISUI SINGAPORE (PTE). と変わりました。

NO 72 KAJIMA CONSTRUCTION は KAJIMA CORPORATION に変わりました。

III 代表者交替

NO 38 UNITIKA LTD MR.Y.MATSUMOTO は MR.N.KAMIKUBO と交替になりました。

NO 40 NIPPON GAKKI CO., LTD MR. Y.SATO は MR.T.FUKAYA と交替になりました。

NO 51 FUJI ENGINEERING CO., (S) PTE.LTD. MR. T.KAWAMURA は
MR.Y.KAMITAKEHARA と交替になりました。

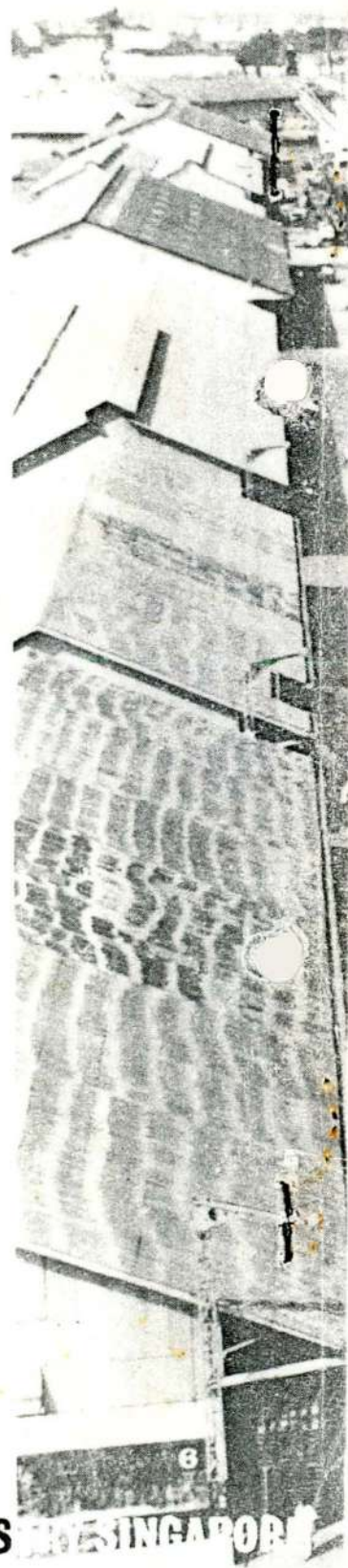
編集後記 ○○○○

昨年の末、着任まもない萩原日本航空支店長をくわいて広報委員を引当けていただき、ようやく月報創号が離陸しました。

名誉顧問 奈良大使の御寄稿と、佐藤会頭の巻頭文をもってスタートを切りましたが、これから皆さんの積極的な御支持により、ますます高度をとり、社内サービスも充実させたいと考えております。

会員各位の御寄稿と、本誌に関する御指導とを期待しております。

MONTHLY REVIEW



JAPANESE CHAMBER OF COMMERCE & INDUSTRY SINGAPORE